

学校交流 Q&A

Q: 訪日教育旅行は、日本の修学旅行とどのような点で異なりますか？

A: 日本の修学旅行のように学年のほぼ全員が参加するケースは少なく、希望者や推薦を受けた児童・生徒が30名から80名程度で来日する「教育旅行」がほとんどです。

Q: どの国からの教育旅行が多いですか？

A: 台湾をはじめとするアジアが多いです。特に最近、中国の小、中学校が増えてきています。

Q: 学校交流の受け入れは初めてで、校内の受け入れ体制もありません。どう交流すればよいですか？

A: 特別なメニューを準備・実施しようとする負担が大きくなりますので、普段の授業や部活動、学校行事、学級活動等を活用した交流から始めるのがよいと思います。また、司会・進行・案内なども含め、児童・生徒が積極的に関わる方策を考えてみてください。保護者や地域の方が参加・協力された学校もあります。

当協会では、コーディネーター、プランナー（英語・中国語対応可）が、担当者が受け入れ校との打ち合わせ、訪問校や依頼元、受け入れ校との連絡・調整、当日の立ち会い等を行っています。

Q: 学校交流の依頼を受けてから実施まで、準備期間はどれくらいですか？

A: 現状、準備期間は、依頼を受けてから実施まで1ヶ月から2ヶ月です。過去には、スケジュールや訪問人数の急な変更等で、受け入れ校にご迷惑をお掛けしたこともありました。現在、当協会では、より良い交流のため、依頼元に3か月前の交流依頼を求めています。

Q: 交流の時間や交流内容は、受け入れ校の希望を聞いてもらえますか？

A: 交流時間は、半日（午前、午後）、1日ですが、当協会では内容も含めて受け入れ校の希望を優先します。

Q: 全校や学年全体で歓迎行事をしなければなりませんか？

A: 歓迎行事など、形式的なことは喜ばれますが、学校の事情に合わせていただいて結構です。もちろん、授業中であれば、児童・生徒なしでの歓迎会・式で十分です。

Q:本校にはアジアの言語を通訳できる教員がいません。通訳は誰がするのですか？

A:訪問団には、バス1台につき1名のガイドを兼ねた通訳が添乗します。ガイドや同行する教員は英語も話せることが多いです。

Q:児童・生徒同士が交流する場合、日本語での交流は可能ですか？

A:小学生の場合はほとんど無理ですので、通訳を介して交流することになります。

中・高校生の場合、日本の生徒より英語での会話が堪能であることが多く、英語で交流すると刺激を受けると思います。最近では、スマートフォン等を活用した交流も増えてきました。児童・生徒は意外と言葉が通じなくとも交流をします。

Q:学校間での記念品の交換や生徒間のおみやげ交換は必要ですか？

A:ほとんどの学校・団体が、学校への記念品を持参されます。当協会が、学校間の記念品、生徒間の記念品、歓迎の横断幕、記念プレートを準備します。負担にならないようでしたら、それに加えて、周年行事で作成された学校紹介のDVDなどを渡されると喜ばれます。また、生徒間の記念品として児童・生徒が学校の授業で作った手作りの簡単な作品等がある場合は、事前にご相談ください。

Q:受け入れ校が準備、負担することはありますか？

A: 交流当日、PCや音響機材等をお借りすることがあります。昼食交流の場合、昼食の用意をお願いすることになりますが、昼食代は訪問校が当日お支払いします。また、当協会では撮影する写真等をHP,その他訪日教育旅行のパンフレットなどに掲載させていただくことがあります。支障があるようでしたら、事前にお知らせください。

Q:国旗を掲揚したいのですが、相手国との位置関係を教えてください。

A:相手国の国旗を入口から見て左に、日本の国旗を右に掲揚してください。当協会が貸し出すことも可能です。

Q:その他、交流で留意すべきことはありますか？

A:児童・生徒を主役に、温かく歓迎していただくことが大切です。手作りの訪問校生の名札などは、とても喜ばれます。相手国の国情、文化、歴史、地理、日本との関係などを事前に調べておかれるのも良いと思います。